

航空貨物分野における 官民連携プラットフォーム

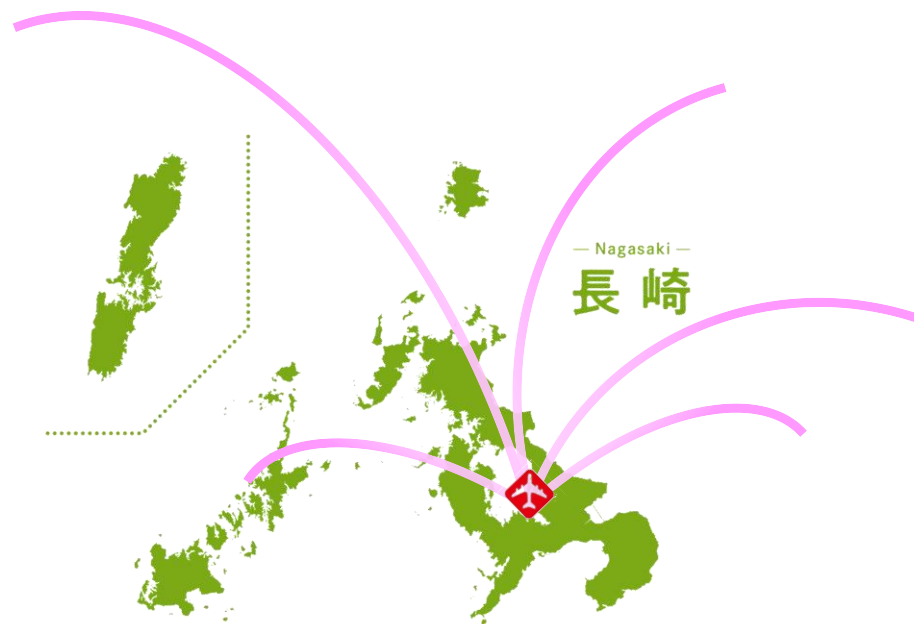
第 2 回 会議資料

◆日時

2026年5月25日(月)
15:00~16:30

◆場所

長崎国際航空貨物ターミナル(株)
会議室



目次

1. 開会

2. 前回の振り返り

3. 講演

① 「航空物流を取り巻く現状と課題」

国土交通省航空局 大臣官房参事官（航空戦略担当） 大田 圭 氏

② 「半導体業界動向及び半導体物流に関する考察」

合同会社BMI 代表 田村 達也 氏

*①、②それぞれ終了後に質疑応答を予定しています

4. 次回会議について

5. 閉会

前回の振り返り

前回の振り返り

- 大村商工会議所では、2025年4月、空港・新幹線（高速交通機能）を活かし、地域産業の活性化を推進するため「空港・新幹線利用促進特別委員会」を設置。同年12月、大村市に対し、空港の機能向上（観光資源との連携強化・空港施設の魅力向上・2次アクセス・24時間化・航空貨物利用促進）を図るための「官民連携プラットフォーム」の設置を提言
- この提言もあり、航空貨物分野について、荷主・フォワーダー・航空会社・経済団体・行政・空港関係の多角的な視点および協力・協働体制のもと、利用促進に向けた実効性のある施策の検討/実行を推進していくための場として「官民連携プラットフォーム（航空物分野）」を設置

背景・現状

航空貨物の現状



- 国内貨物は低迷傾向
- 国際貨物（輸出）はゼロ

空港のポテンシャル



- 3,000m級滑走路
- 高速道路・新幹線との接続
- 工業団地、港湾との近接

構造的な変化



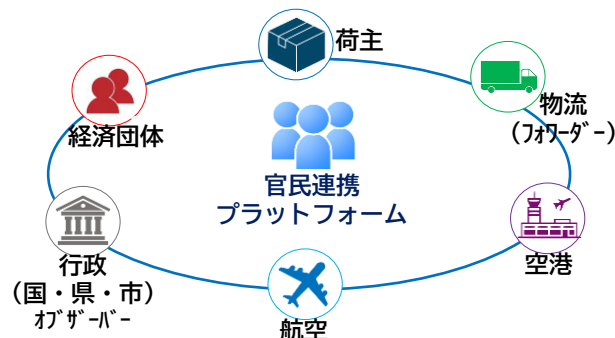
- 航空便の減便、機材の小型化
- 産業構造の変化
- 生産拠点の海外移転
- 物流インフラ（陸送）の発達

⇒ 現状分析と課題整理が必要な段階です

①プラットフォームの概要

航空貨物利用を促進するため、官民が連携して課題解決と施策検討を行う場です

構成メンバー（官民19企業・団体）



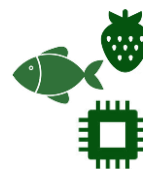
業界・立場の垣根を越えて課題共有・連携を推進

取組の目的



航空貨物の利用拡大

スピード輸送や付加価値輸送を促進します



地域産業の競争力強化

生鮮・半導体関係など高付加価値貨物の輸送を促進します



物流・空港機能の向上

関係者の連携・協働により、持続可能な物流基盤を整備します



地域一体、業界・立場の枠組みを越えた連携で
長崎空港の航空貨物利用促進に向けた取り組みを推進していきます

第1回の会合にて、現状についての共有を実施しました



現状



国内航空貨物取扱量

5,978 t (2025年度)
⇒ピーク時21,273 t (2000年度)



機材小型化・LCC就航・コロナ禍の減便を経て陸上輸送へ定着



輸出貨物はゼロ(2023年度～)

打開



プラットフォームメンバーの多角的な視点による、検証・施策の検討と実行推進の場

目標



国内航空貨物
⇒コロナ禍前の取扱量回復
13,439 t (2018年度)



国際航空貨物
⇒輸出に向けた環境整備

②今後のスケジュール (予定)

現状の共有

●4/24 (金) 第1回

- ▶ プラットフォーム設置の目的についての共通認識
- ▶ 長崎空港の航空貨物の現状 (課題感の可視化)
- ▶ 各業界における現状

航空貨物を取り巻く環境の理解の促進①

●5/25 (月) 第2回

- ▶ 国交省航空戦略担当官による、航空貨物行政の現状と展望に関する専門講話
- ▶ 物流コンサルタントによる、半導体物流に関する専門講話

課題の検討・整理

●7月下旬 第3回

- ▶ 荷主・フォワーダー・航空会社それぞれの視点による「利用の障壁 (需給のミスマッチなど)」の整理
- ▶ 現状把握から判った事実からの課題を抽出、整理 (輸送のボトルネック等)
- ▶ 各業界の既存リソースの再確認

航空貨物を取り巻く環境の理解の促進②

●8月下旬～9月下旬 第4回

- ▶ 県内の新たな物流需要に関する講話

方向性の検討

●10月下旬 第5回

- ▶ ターゲット品目における「荷主×フォワーダー×航空会社」の連携、および既存輸送ルートや便を掛け合わせた、新たな「運ぶ仕組み」等のアイデア出し など

中間とりまとめ

●11月下旬～12月 第6回

- ▶ これまでの議論を集約した内容の取りまとめ
- ▶ 9月からの設置準備に向けた関係者間の協力体制の確認

分野ごとに 具体的施策の検討

●2027年4月～

- ▶ 世話人を中心に、各分野の「分科会」にて実効性のある施策の検討/実行

参加者の主な意見・期待

主な意見・課題

- ✓ 人手不足・高齢化により輸送力の確保が困難
- ✓ 2024問題によるリードタイム延長・コスト増
- ✓ 荷量確保とコストのバランスが課題
- ✓ 地政学リスクや災害等への対応が必要
- ✓ 航空貨物は時間制約や戦略面での有効な手段

航空貨物への期待

- ✓ スピード輸送に対するニーズは高い
- ✓ 生鮮・半導体など高付加価値貨物に適している
- ✓ 空きスペースの活用余地がある
- ✓ トラックから航空へのモーダルシフトにも期待

引き続き、本取組へのご理解とご協力をお願いいたします

講演

航空貨物を取り巻く最近の動向や、長崎における物流の可能性等について
理解を深めるために、下記のとおり講演を実施します

講演①



(30分)

国土交通省航空局
大臣官房参事官（航空戦略担当）

大田 圭 氏

「航空物流を取り巻く現状と課題」

■概要

国内外の航空貨物輸送の動向、事業者による効率化や自動化への取組、地方空港における「新モーダルシフト」の推進や機能強化策等ふまえ、我が国の航空物流の将来像について、行政的視点からご講演いただきます

■主な経歴等

- ・総務省入省
- ・佐賀県経営支援本部財務課長
岡山県総務部財政課長などを歴任
- ・総務省自治財政局調整課理事官
- ・長崎県総務部長（2020年から3年間）
- ・総務省地域振興室長
- ・現在：国土交通省航空局
大臣官房参事官（航空戦略担当）

行政・民間双方の視点から理解を深める

講演②



(30分)

合同会社BMI
代表

田村 達也 氏

「半導体業界動向及び半導体物流に関する考察」

■概要

半導体業界の現在の市況（世界／国内／九州／長崎）、今後の予測等ふまえ、長崎空港における物流の可能性などについて、民間視点からご講演いただきます

■主な経歴等

- ・外資系フォワーダーに勤務（米国駐在等）
- ・Sony Supply Chain Solutionに勤務
（タイ・マレーシア現法社長等）
- ・Mitsui Soko Supply Chain Solutionに勤務
（九州統括責任者等）
- ・現在：合同会社BMI 代表
（資材調達・半導体関連コンサルティング）

講演内容については、関係者限りでのお取扱いにご協力をお願いいたします。
また、講演中の録音・録画等のご遠慮ください